

ISSN 0919-4657

KONC

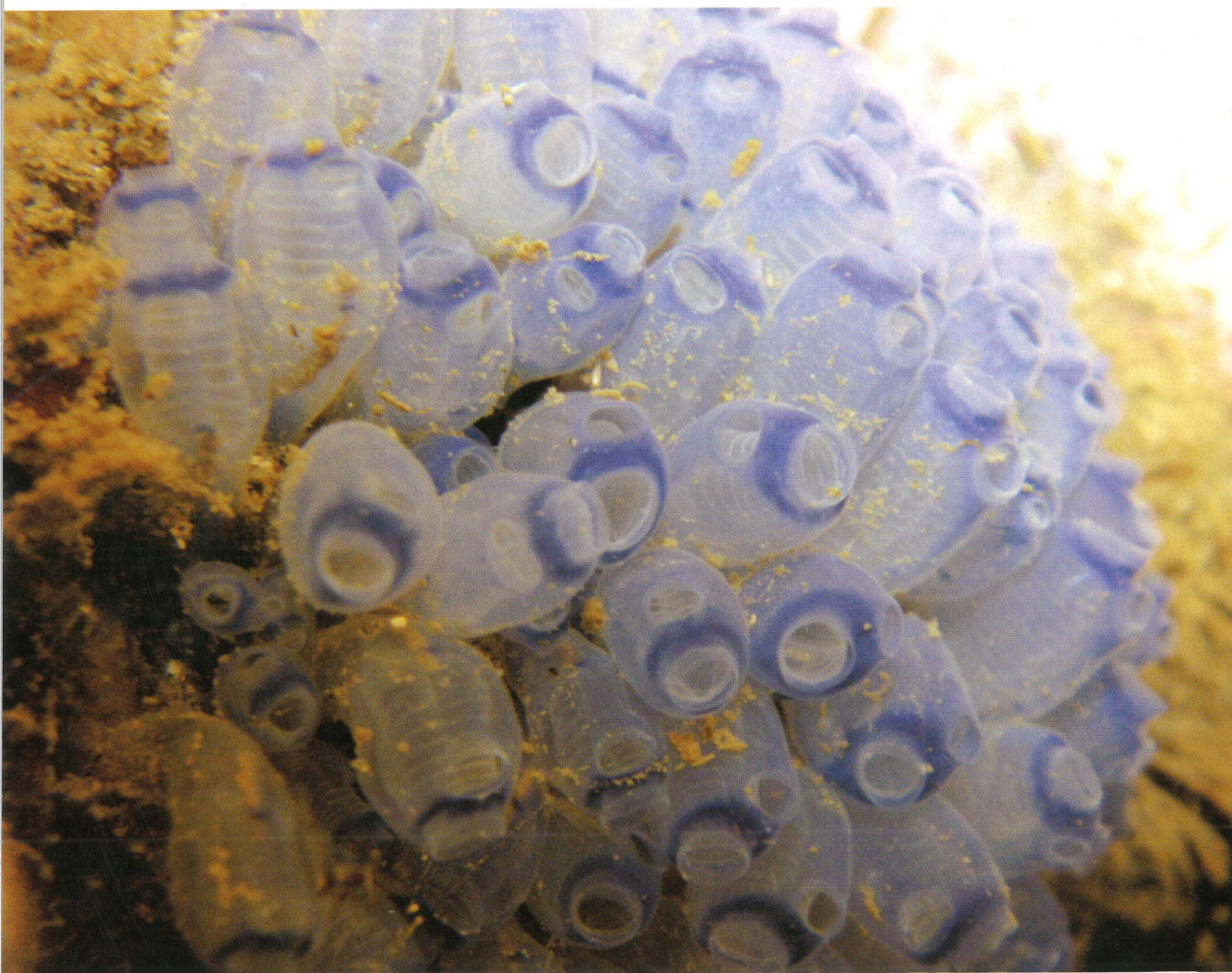
Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

**関西
自然保護機構
会誌**

31巻2号(通算58号)

シンポジウム特集Ⅱ かんさい自然フェスタ2008

大阪湾フォーラム／タンポポの繁殖干渉



2009年12月
関西自然保護機構

表 紙 の 言 葉

コバルトツツボヤ *Clavelina coerulea*

(脊索動物門：尾索動物亜門：ホヤ綱：マメボヤ目：ヘンゲボヤ科)

写真・文 山西 良平

1980年から大阪湾南部の岩礁海岸生物の定点モニタリングを、大阪湾海岸生物研究会の仲間と続けている。この海域でおもしろいのは、紀伊水道を北上してくる暖流系の生物たちの中で、瀬戸内海の東の玄関口を前にして窺うような挙動（出現傾向）を示すものが少なくないことである。かれらにとっては主として閉鎖性水域における冬の低水温が制限要因となっており、湾内への進入が妨げられていると考えられる。たとえば、紀伊半島沿岸では普通種であるアマオブネガイという腹足類（巻貝）は、年によって記録されたりされなかったりするが、前年の冬の水温の下がり方と符合しているようである。

写真のコバルトツツボヤは、幼生期に脊索を持つことによって我々と同じ脊索動物門の一員とされている「ホヤ」の1種で、個虫の長さは2～3センチメートル、それぞれ大きな入水孔・出水孔を1個ずつ持ち、群体をつくって水中をゆらゆらしている。色彩が鮮やかなために遠目にもその存在は容易に発見できる。

このホヤは2007年6月17日にこのモニタリングサイトの最も南寄りに位置する和歌山市田倉崎海岸で初めて記録された。この日は低潮線付近の浅い水面下で随所に見られ、20人以上の参加者が全員で確認した。他にも、南方系で有毒とされるヒョウモンダコや、紀伊半島では串本で記録されていただけのヒメギボシムシが、定点調査を始めてから30年近くも経って初めて記録されたので、この日のことは強く印象に残っている。

今年も同様の調査を田倉崎で実施したが、これらの動物は見つからなかった。コバルトツツボヤはよく目立つ、定座性の動物なので、いれば記録されていたにちがいないと思う。

関西自然保護機構 (KONC : Kansai Organization for Nature Conservation)

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。